

1 教育目標

幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期であり、幼稚園教育は、義務教育及びその後の教育を培う重要なものである。

幼稚園教育は環境を通して行うことを踏まえ、基本的な生活習慣の形成や心をはぐくみ、「生きる力」を育てることを幼稚園教育の基本とし、次のように教育目標を定める。

知すすんで活動できる子
徳明るく思いやりのある子
体健康でたくましい子

2 教育目標の指針

| 教育目標 | 指標【指導の重点・具体的目標】 |
|-------------------------|---|
| 知 すすんで活動できる子 | <ul style="list-style-type: none">・人の話を静かに聞くことができる。・自分の思ったこと、考えたことをはっきり伝えることができる。・生活を楽しむ中で、工夫したり試したりできる。 |
| 徳 明るく思いやりのある子 | <ul style="list-style-type: none">・進んであいさつをし、返事ができる。・ていねいな言葉を使うことができる。・きまりや約束を守ることができる。・身近な動植物や自然とかかわることができる。・友だちと仲良く、力を合わせて生活することができる。 |
| 体 健康でたくましい子 | <ul style="list-style-type: none">・元気でよく遊ぶことができる。・最後までがんばることができる。・進んでいろいろなことに挑戦することができる。・規則正しい生活をするすることができる。・安全な行動ができる。 |

3 教育方針

- (1) 幼児の発達段階に即した指導を行う。
幼稚園教育要領、幼児の実態、幼児を取りまく環境を考慮し、教育目標の達成に必要な教育活動を展開する。
- (2) 少人数学級の特徴を生かした園運営を行う。
遊びを中心とした生活の中で、少人数学級の特徴を生かし、多様な体験を重ねながら集団生活に必要な習慣や技能を身につけ、心身の発達を促し、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育む。
- (3) 各関係者及び関係機関との密接な連携のもと、指導を行う。
単園、単学級のハンディを逆に生かし、保護者をはじめ、地域、教育委員会、小学校、中学校などの各関係者・関係機関との連携を密にし、地域に根ざした幼稚園教育を行う。

4 目標達成のための教育像

(1) めざす幼稚園像

- ・一人一人の幼児が大切にされる幼稚園
- ・一人一人の良さや可能性を見つけ伸ばす幼稚園
- ・幼児が主体的に遊べる環境を作り、夢を広げていくような幼稚園

(2) めざす教師像

- ・幼児のよさや可能性をみつけ、それを伸ばす教師。
- ・一人一人の子どもと共感できる教師
- ・教師としての使命感と情熱をもち、園児や保護者から信頼される教師。
- ・常に研修に励み、資質向上に努める教師。

(3) めざす園児像

- ・遊びに積極的に取り組み、意欲的な子ども。
- ・きまりを守り、友だちと仲よく助け合い、思いやりのある子ども。
- ・知的好奇心が旺盛で、感性豊かな子ども。
- ・先生や友だちの話を最後までしっかり聞く子ども。

5 本年度の重点目標

(1) お話しが上手にできる。

- ①絵本の読み聞かせや読書指導の充実を図り、思考力・判断力・表現力を身につける。
- ・絵本の貸し出しの時間を利用し、借りない子も1日20分程度は、絵本も手に持つ時間を作る。
 - ・園長、担任、保護者等による読み聞かせを通して、絵本に親しむ機会を作る。
 - ・読み聞かせの感想の発表や音読などを通して、話す力を身につける。

(2) 最後まで、しっかりと聞く事ができる。

- ①朝の会や帰りの会、読み聞かせなどを通して、最後まで話を聞く習慣を身につける環境を作る。
- ・朝の会や帰りの会を実施し、人の話を聞く習慣をつける。
 - ・読み聞かせを通して、静かに話を聞く態度を身につける。

(3) あいさつが上手にできる。

- ①基本的な生活習慣の形成を図り、心身共に健康な子の育成を図る。
- ・学校だけでなく、友達の保護者や地域の人にもあいさつができる。
 - ・他校種との連携や地域との連携を通して、人に触れる機会を作る。

(4) 友達と仲良く遊ぶ事ができる。

- ①室内外における空間や遊具、用具を使って友達と仲良く遊ぶ事ができる。
- ・思いやりの心を持ち、行動や言動により、相手を傷つけない事を目標に据え、学級経営をする。
 - ・直接的、具体的な体験を通し、幼児の心情・意欲・態度を育む。